



ロボット手術 湖国で広がり

大津市民病院など

胃、腎がんも適用 より安全に

滋賀県の病院で、腹腔鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を活用したがん治療が広がっている。従来の前立腺がん手術に加え、大津市民病院(大津市本宮2丁目)では胃がんの、滋賀医科大学部付属病院(同市瀬田月輪町)では腎がんの手術にそれぞれ活用されており、患者の身体的負担を軽減しつつ、より安全な治療ができると期待されている。

滋賀県内でがん治療への活用が広がっているロボット支援手術。手術台上のアーム(右)を、機器に座った医師(左奥)が操作する＝大津市本宮2丁目・大津市民病院

ダヴィンチは内視鏡カメラやメスなどを装着したアームを医師がモニターを見ながら操作する機械。アームは人間より精細で自由に動き、手ぶれもないため、難易度の高い手術も可能とされる。

大津市民病院は2014年5月に導入し、胃がん切除手術の専門チームを結成。今年3月までに年間20回の手術を成功させ、全国でも7施設しか取得していない「先進医療」の認定要件を満たした。

認定後は手術以外の入院費などに保険が適用され患者の経済的負担が軽減されるほか、民間保険の先進医療特約の対象にもなる。同病院の片岡慶正院長は「多くの患者に安全な医療を提供するとともに、日本の医療をリードする病院として医師らの育成にもつなげたい」とする。

13年からダヴィンチを運用している滋賀医科大学では、腎がん部分切除で4月から保険診療ができるようになった。腎臓にできた転移の恐れがない直径4〜7センチの腫瘍の摘出が対象となる。従来の腹腔鏡手術に比

べて臓器の血流を止める時間を短くできるため、臓器の機能が悪化するリスクを下げられるという。同病院は年間約80例の実施を目指す。

ロボット支援手術を100例以下実施してきた同大学泌尿器科学講座の河内明宏教授は「手術時間が短縮されれば心筋梗塞など合併

症のリスクも抑えられる」と話している。

(小川卓宏、熊美孝啓)